

NPO法人として認定農業者になり、障害者の力で地域の特産品であるイチジクとこんにゃくの認知を拡大したことで、市の特産品の栽培と製造の担い手として、地域農業をつくる一翼を担う。

基本情報

- 所在地：滋賀県栗東市
- 団体名：特定非営利活動法人 縁活（運営主体）、就労継続支援B型事業所「おもや」（事業所）
- 選定表彰：
滋賀県働く障害者を応援する農福連携モデル事業所（平成30年～令和4年）
- 主力商品：イチジク、トマト、こんにゃく、水稲、ぶどう etc.
- 取得認証等：平成29年 認定農業者



取組の概要

- 知的障害者を中心とする施設利用者が、平成30年にイチジクやこんにゃくいも等の生産を周年で行うとともに農山漁村振興交付金で整備した加工施設等により、こんにゃくを製造している。
- 開設したレストラン（オモヤキッチン）では、自然栽培で生産した野菜を提供するとともに、収益を増やすため、加工により作物のロスが減らす。
- 福祉事業を営むNPO法人として認定農業者になるなど、市の特産品の栽培と製造の担い手として、期待が高まっている。令和2年度より栗東市の農業委員にも任命を受け、地域農業をつくる一翼を担う。
- 令和5年度より、山間部の古民家を改修し新たな拠点『あるきだす』を構える。



農産物加工施設

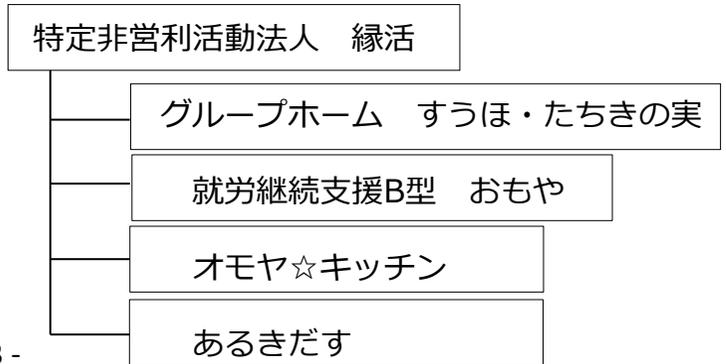


再生された荒廃農地



新たな拠点『あるきだす』

体制図



取組の成果

- 平成28年栽培開始のこんにゃくいもの生産量は、100kg（平成29年）から150kg（令和4年）へ増加。
- 平成26年に30aの荒廃農地を再生。その後も農地の再生を行い、現在（令和4年）、合計で180aと順調に農地面積が増加。



所在地 ▶ 滋賀県栗東市霊仙寺 1 丁目 3 -24
 連絡先 ▶ TEL : 077-598-5368 E-mail : omoya@aria.ocn.ne.jp
 ウェブサイト ▶ <http://enkatsu.or.jp>

【取組のプロセス】

平成23年

人口が増加傾向の地区と過疎化が進む地区が併存する地域で、農福連携による地域課題の解決と地域共生社会の実現にチャレンジ

きっかけ

地域特産の農作物の栽培、地元で根差した活動の実施を目指してNPO法人を設立

地域特産を活かした加工品製造に着手し、収益向上

- NPO法人縁活によって設立された就労継続支援B型事業所おもやで、栗東市が産地で、単価の高い果実であるイチジクの生産を開始し、徐々に経営規模を拡大。



イチジク

平成27年

自家レストラン「オモヤキッチン」をオープン

- 野菜は12種類もの多品種を少量生産することで、直売所での販売品目を増やして販売。
- 作物のロスが減らして収益を増やすことを考えたレストランを開設。



オモヤキッチン

平成29年

福祉事業を営むNPO法人として認定農業者へ

- 荒廃農地を再生した約2haの田畑で、イチジク（ハウス4棟）のほか、自然栽培による水稻とトマト等の野菜（ハウス4棟）、こんにゃくいもを栽培しており、市の特産品の栽培と製造の担い手として、期待が高まっている。
- 令和2年度より栗東市の農業委員の任命を受け、地域農業の維持・発展に向けた一翼を担う。
- 栗東市内の中山間地域の活動を広げるため「栗東市農のある暮らし協議会」を設立しフォレストマーケット in 成谷を年2回定期開催。



自家生産の野菜

令和元年

平成30年、子どもとこんにゃくいも植え付け体験や収穫・加工体験

今後の展望

地元住民参加型の取組により、地域課題に対応

- 栗東産こんにゃくを自社の加工施設で引き続き製造、販売していく。
- 栗東の金勝地域にある古民家を改修し新たな拠点（あるきだす）を開所。子ども達とこんにゃく、味噌、醤油などを作る体験の場を作り、『農』と『食』を通じて、人と人の関係をつくる新たな集落の居場所となること目指す。



利用者による水稻収穫風景

平成30年「農山漁村振興交付金」を活用して、特産品である「栗東産こんにゃく」の製造等のための施設と休憩所を整備



国産原料100%、原材料生産・製造・販売まで100%福祉事業所が行う「100%ノウフク連携ビール」を目指し、全国連携による原材料調達や6次産業化で収入の安定を図ることで、障害者の工賃向上につなげている。

- ### 基本情報
- 所在地：京都府京都市
 - 活動地域：都市的地域
 - 団体名：社会福祉法人菊鉾会ヒーローズ
旧：特定非営利活動法人HEROES
 - 選定表彰：
 - ・ノウフク・アワード2020審査員特別賞
 - ・インターナショナル・ビアカップ2020 銅賞（主催：日本地ビール協会）
 - ・ジャパン・グレートビア・アワーズ2022 金賞（主催：日本地ビール協会）
 - ・全国地ビール品質審査会2024 優秀賞（主催：全国地ビール醸造者協議会）
 - 主力商品：麦、ホップ、ゆず、茶、米麴
 - 取得認証等：－

取組の概要

- クラフトビールの醸造及び販売に当たって、強度行動障害者（自閉症）をはじめとした障害のあるメンバー25名で、ビールの充填、ラベル貼り等を行う。
- 原料は国産にこだわり、大麦は群馬県、ホップは宮城県、ゆず、お茶の葉は京都府の農家へ生産を依頼。
- 障害者が作業しやすいよう視覚的に理解できるマニュアルを活用し、ラベル貼りや醸造作業等、障害者の作業工数を増やした作業内容となるよう工夫。



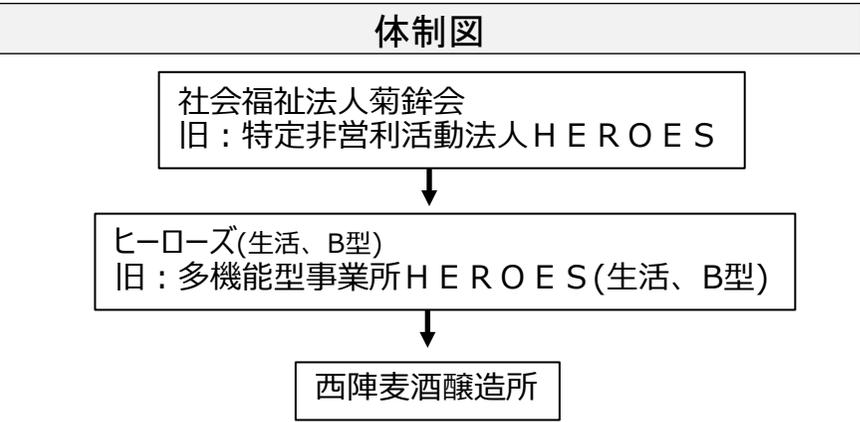
ビールの醸造作業



発酵タンク



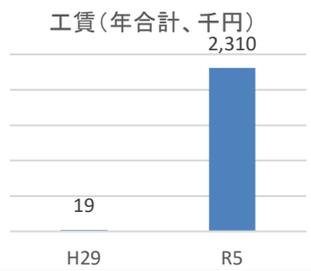
ラベル貼り作業



取組の成果

- 障害者の年合計工賃も19千円(H29)から、2,310千円(R5)へ大幅に増加。
- ビールの出荷量は、開始当初の1,700ℓ(H29)から、19,052ℓ(R5)に増加。

工賃(年合計、千円)



年度	工賃(千円)
H29	19
R5	2,310

所在地▶京都市上京区大宮通今出川下る薬師町234
 連絡先▶TEL：075-415-4646 E-mail：nishijin-beer@kikuhokokai.or.jp
 ウェブサイト▶http://nishijin-beer.com/

【取組のプロセス】

平成25年

強度行動障害者の通所先や適切な支援の確保のほか、重度障害者に仕事を提供できる事業所設立

きっかけ

強度行動障害者（自閉症）の通所先確保を目的に生活介護事業を開始し、重度障害者でも仕事を提供できる事業所とするため、クラフトビールの製造を開始

生活介護事業の開始

- 開所の目的は、自閉症のいわゆる強度行動障害といわれる方々の通所先を増やすことで、適切な支援を受け安定して通所できるようになった際に、居場所ややりがいを提供する役割が必要であったことから生活介護事業を開始。

平成26年

醸造所の設立による安定収入で、障害者の賃金向上、地域とのつながりによる地域生活支援を目指す

生活介護事業所の授産科目として西陣麦酒醸造所設立

- 2酒類製造免許(ビール・発泡酒)を取得しクラフトビールの醸造と販売を開始。
- ビール原料は、ほぼ輸入品である中で、「国産原料100%かつ、原材料生産から製造、販売まで100%福祉事業所が行う、100%ノウフク連携ビール」を目標に活動。

平成29年

原材料の作付面積は、大麦で開始当初の10aが1haへ年々増加

生活介護から多機能型（生活・就労B型）へ

- 農業と福祉の連携をイノベーションするように活動。
- 作業内容は、事務作業、PC入力や資料作成、発送作業、リネン作業のほか農作業を行う。
- 令和4年に法人格を社会福祉法人菊銚会に変更し、令和5年に京町家工場へ移転リニューアル

令和元年

農業関係者の広がりにより、農地所有者からの関心も高く、休耕地の活用につながる

原材料の100%国産化を目指す

- ノウフクをさらにオープンにし、プロジェクトチーム化などのイノベーションにより商品価値を高めていく。
- 原材料の国産化は製品の一部にとどまっているため、原材料確保のために生産できる事業を増やすことと、副原料となる農産物（柑橘類など）も増やしたい。
- 障害者が本当の意味で、地域で役割を得て、一住民として対等に存在し、豊かに生活すること目的に行動していく。

今後の展望



事業所外観



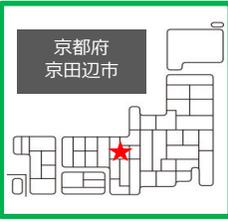
タンクでビール醸造中



作業スペースの様子



ビールの発表及び説明会



障害者が「支援される側」ではなく「地域をつくる側」になる未来を目指し、荒廃農地を活用して万願寺とうがらしやハーブを生産・加工・販売するなど、「農業」を主軸とした取組を進める。

基本情報

- 所在地：京都府京田辺市
- 団体名：三休合同会社
- 選定表彰：
 - 福祉未来価値創造大賞2020 銀賞
(主催：NPO法人Deep people)
 - ジャパングレードビアアワーズ2022銀賞
(主催：日本地ビール協会)
 - ノウフク・アワード2022フレッシュ賞
- 主力商品：
 - 万願寺とうがらし、ハーブ、ベビーリーフ、ハーブティー、ローゼルを使用したビール等
- 取得認証等：認定農業者(令和6年取得予定)

取組の概要

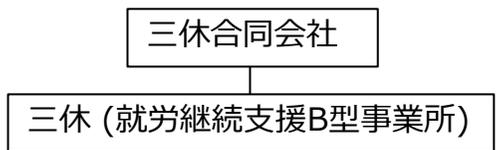
- 精神疾患、知的障害、身体障害など、様々な障害特性を持つ25名と農業の6次産業化に取り組む。
- 荒廃農地を活用して、万願寺とうがらし、ハーブ等を生産し、JAや道の駅、飲食店に出荷。
- 生産したハーブを用いたスイーツやドリンクを提供するカフェを運営。
- 野菜が入場料の音楽イベントや地域の大学と協働したイベントの開催、民間企業等と連携し、ローゼルを用いたビールの開発を行う。

万願寺とうがらしの収穫

野菜が入場料の音楽イベント

ローゼルを使用したビール

体制図



取組の成果

- 農業収入は、約14万円（令和元年）から約500万円（令和4年）に向上。
- 栽培面積は、20a（令和元年）から60a（令和4年）に、カフェ来客数は、52人（令和2年）から105人（令和4年）にそれぞれ増加。

農業収入（万円）

年度	農業収入 (万円)
R元	14
R4	500

所在地 ▶ 京都府京田辺市大住池ノ谷45-1
 連絡先 ▶ TEL:0774-66-2162 E-mail: sekoguchi@3-kyu.com
 ウェブサイト ▶ <https://3-kyu.com/>、<https://greenz.jp/2022/11/30/sankyu/>

令和元年

きっかけ

「障害者が活躍できる仕事」として「農業」を軸とした取組を検討した際、障害者が「支援される側」ではなく「地域をつくる側」になる未来が見えた

荒廃農地を活用して農業を開始

- 「福祉は地域に混ざりあうもの」という思いを持ち、地域の方々との話し合いを定期開催。
- 美味しい作物を生産・販売することで、工賃を高くでき、地域課題である荒廃農地の活用に寄与する。「障害者が支援される」側ではなく「障害者が地域をつくる側」になる未来が見えたことから、「農業」を軸とした取組を開始。



カモミール収穫体験

令和2年

6次産業化を進める

- 畑作業と、室内作業の充実を図るため、ハウス整備と併せて、6次産業化を進める。
- 6次産業化について、具体的には「ハーブティー製造」など加工の取組拡大やハーブを使用したスイーツやドリンクを提供する「三休カフェ」の運営を開始。



ハーブティー作り

令和3年

加工の取組と出荷先の拡大

- ハーブティーの製造を開始。また、JAへ万願寺とうがらしの出荷を開始。万願寺とうがらしの令和4年度の出荷量は前年対比2倍（約3トン）を達成。
- ローゼルを使用したビール「THANK YOU FOR THE MUSIC」を民間企業や飲食店と共に開発。ジャパングレードビアアワーズ2022銀賞を受賞。



ベビーリーフの出荷作業

今後の展望

障害者が「なりたい姿」に近づき、「やりたいこと」ができるようになる

- ローゼル及びその加工品の販路拡大などにより、工賃向上を目指す。
- 地域の大学や地域関係者と連携したイベント等を通じて、地域との連携深化を図る。
- もっと働きたいと思った人が一般就労に挑戦できる「三休」を目指す。

就労継続支援B型事業所「三休」開設

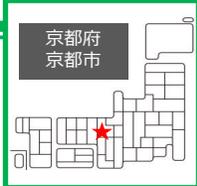
農業開始

カフェオープン

ハウス整備

ハーブティー製造開始

ローゼルビールプロジェクト実施



障害者目線の職場環境や作業手順に配慮し、九条ネギをメインとした野菜の生産に取り組むとともに、障害者や就労困難者の雇用、就労支援にも積極的に取り組む。

基本情報

- 所在地：京都府京都市
- 団体名：株式会社しんやさい
- 選定表彰：
 - ・障害者雇用優良事業所表彰（令和5年度）
 - ・優良勤労者表彰（令和5年度）（京都府知事）
 - ・中小企業ミライ絵日記アワード2023 審査員賞（（一社）ちいきん会・（一社）スマートニッチ応援団 共催）
 - ・ノウフク・アワード2023優秀賞
- 主力商品：九条ねぎ、長なす、金時人参、聖護院大根、聖護院かぶ、新京野菜等
- 取得認証等：認定農業者
京都はあとふる企業認証（京都府）
S認証（（一社）ソーシャル企業認証機構）

取組の概要

- 新規就農者として障害者雇用を行った際に、障害への理解不足で当該職員が退職した経験から、相手の立場に立つことの重要性を認識し、その後、障害者雇用を本格的に開始。
- 社員4名のうち、障害者2名と元ニート1名を正規雇用し、全員に最低賃金以上を支給。
- 車いすや手押し車でも収穫体験ができるようにほ場を整備しているほか、障害者でも理解しやすい農作業マニュアルを作成するなど、障害者が働きやすい環境を整備。地域の福祉事業所や特別支援学校に野菜や花の種を提供し、共同で栽培を行っている。
- 職業訓練により正規雇用ステップアップした障害者職員が企業在籍型職場適応援助者の資格を取得し、若手障害者職員を指導。
- 地域の加工業者や販売業者と連携し、規格外野菜を活用した加工品の生産を開始。
- 自社による週に一度の飲食営業を開始し、収益向上や廃棄ロスの削減に貢献。



農園スタッフと実習生



車いすでの収穫体験

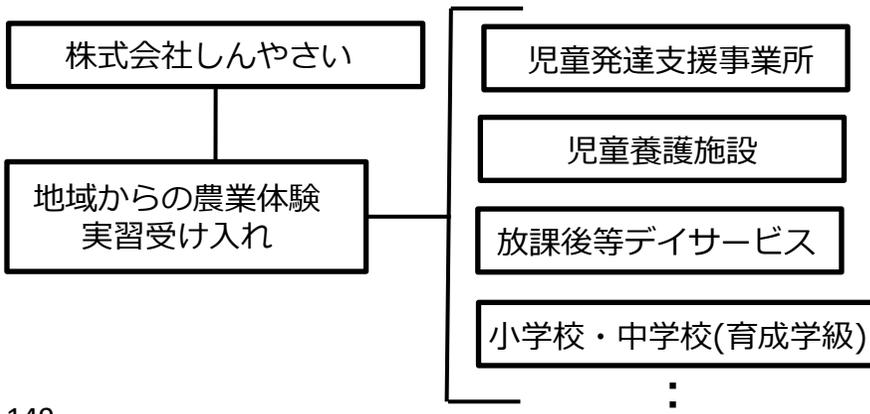


各作業のマニュアル作成



京野菜と加工品

体制図



取組の成果

- 障害者を受け入れたことで、労働力不足が解消。障害者に配慮した作業の見える化をすることで、障害者以外の農作業も効率化。
- 近隣の荒廃農地を新たに借り受けて規模拡大（平成27年:72a→令和4年:約300a）を図り、新たな品目を作付けできたことで収益が向上。
- 障害者だけでなく、多様な人々の農業体験・実習の場となっている。
- 障害者に配慮した職場環境や、作業の見える化を行うことにより、障害者以外の作業の効率化も実現。

所在地▶農園：京都府久世郡久御山町西一口新道北46 / 事務所：京都市南区
 連絡先▶TEL:075-682-8622 E-mail:info@shinyasai.kyoto
 ウェブサイト▶https://www.shinyasai.kyoto/

【取組のプロセス】

平成29年

福祉サービス事業所からの申し出があったことから、施設外就労として連携を開始

平成30年

障害者雇用を開始。一度は失敗するも京都府の就農相談員からの紹介で継続

令和2年

代表が、農福連携技術支援者として認定

令和5年

京都府知事より
・障害者雇用優良事業所表彰
・優良勤労者表彰を受賞

今後の展望

きっかけ

京都市で新規就農し、九条ねぎ等の栽培を通じ、地域の福祉事業所との連携や障害者雇用により、生きづらさを抱えた人財の農業分野での活躍の可能性に気付いた

九条ネギをメインに多種多品目の野菜の生産にチャレンジ

- 就農当初、人手不足もあり、研修先農業法人の元同僚(障害者)を雇用したが、障害者への理解不足のまま接してしまい、半年程で退職。
- 2人目の障害者雇用時は、当事者の希望に寄り添い無理のない働き方(週1回半日勤務)でスタート、徐々に時間や日数を伸ばし、重要な戦力として勤務。

障害者目線の農福連携の取組を実践

- 拠点ハウスの男女別トイレの設置、特別支援学校からの実習の受け入れを皮切りに、地域のこども園・児童養護施設・小学校・中学校・高等学校・高等技術専門校・大学・大学院・放課後等デイサービス・子ども食堂・ボーイスカウト等と連携し、収穫体験や職場体験実習を実施するなど、地域内交流を進めている。
- 地域の社会福祉協議会が主催する認知症カフェ利用の高齢者や身体障害者等に対し、車椅子や手押し車でも収穫体験ができるよう配慮。

障害者等を積極的に受け入れ、雇用条件充実のため法人化

- 地域の廃業した銭湯を活用し、週に1度の規格外野菜を多用したランチ営業をスタート、農作業体験だけでなく、調理実習や接客体験もプログラムに追加。
- 障害のある社員が、企業在籍型職場適応援助者の資格を取得、自身の経験も踏まえ、同じ立場で支援(ピアサポート)する取組をスタート。
- 障害者等が自身の経験を活かして、障害者雇用セミナーやシンポジウム、ニート・ひきこもり支援の交流会等で積極的に登壇、体験談等を話すことで様々な業種での理解が深まり、多様な人々が働きやすい職場環境の創出につながっている。

農業分野でのロールモデルになる

- 農福連携の取組についてPRし、販路の拡大を図ると共に、障害福祉サービス事業所とのコラボ商品(加工品)を開発、ノウフクJASやGAPの取得を目指す。
- 障害等のある社員が、支援を受ける立場から支援する立場へキャリアアップを図り、農業分野でのロールモデルとして、他の農業者や地域での農福連携の推進を目指す。



福祉サービス事業所と九条ねぎの定植作業



特別支援学校からの実習受け入れ



京都式農福連携啓発マンガ



実習生と一緒にマルシェでの販売



規格外品に着目した農産加工による地域活性化として、地域の農業者から規格外品を受け入れて、農産加工品を製造し、その加工品を農家に売り戻す活動や、買い取って自主製品として販売する活動を実施。

基本情報

- 所在地：京都府与謝野町
- 団体名：社会福祉法人よさのうみ福祉会（運営主体）、就労継続支援B型事業所「リフレかやの里」（事業所）
- 選定表彰：
平成22年 厚生労働大臣賞受賞(加工品)
- 主力商品：九条ねぎ、ばれいしょ、かぼちゃなどの野菜etc.
- 取得承認等：－



未利用規格外の農産物

取組の概要

- 社会福祉法人よさのうみ福祉会が運営する就労継続支援B型事業所で、施設利用者16名が、野菜生産と農産加工、パン・ケーキ製造に通年で取り組む。
- 近隣の農業者をはじめ、府外の農業者等から広く、主に規格外の生産物を預かり農産加工品を製造、その加工品を農業者に渡す活動を実施。これにより、農産物の付加価値を高め、障害者の工賃向上に貢献。また、食材廃棄の減少にもつながっている。
- 農地3.6haにおいて、九条ねぎ、ばれいしょ、かぼちゃなどの野菜をハウス6棟と露地で栽培（令和5年）。



農産物加工場



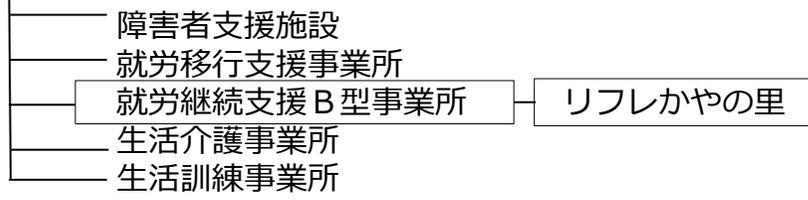
農産物加工場の様子



農産物加工品

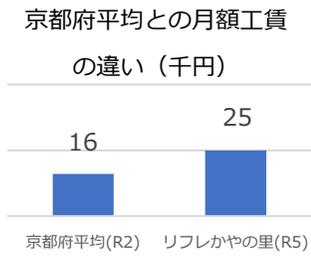
体制図

社会福祉法人よさのうみ福祉会



取組の成果

- 就労継続支援B型事業所利用者の平均月額工賃は最高約25,980円(令和5年)（京都府平均は約16,749円(令和3年)）
- 農産物加工品の売上高は、年間約2,300万円（令和4年）を計上。



所在地 ▶ 京都府与謝郡与謝野町字金屋1730番地
 連絡先 ▶ TEL：0772-43-1730 E-mail：refre@yosanoumi-fukushikai.or.jp
 ウェブサイト ▶ <http://refre.yosanoumi-fukushikai.or.jp/>

【取組のプロセス】

昭和55年

きっかけ

地域特産の農作物の栽培、地元で根差した活動を開始

休耕田を使った農作物栽培などの事業

- 事業で得たヒントをもとにそのノウハウを生かし、規格外の農作物を使った加工品製造の事業をはじめた。

平成23年

農産物加工場で、ジュースやジャムなどの加工品を製造している

- 自社で生産した野菜の規格外品に加え、外部の農業者から受け入れ、漬物、ジュース、ジャム、ソース、缶詰などを製造し、当該農業者が独自のブランドで販売。また、農業部門では、野菜を学校給食の原料としても安定的に販売。

厚生労働大臣賞を受賞を契機に飛躍

- 農産加工品は、厚生労働大臣賞の受賞を後押しに地域でも一般に販売されるようになり、福祉施設の利用者の工賃の向上にもつながる。

地域農業の活性化に貢献

- 事業所だけではまだ余力があるため、近隣農業者において、施設外就労として農作業も実施。ねぎの定植や草刈り、野菜の出荷作業などを通じ障害者が農業者と触れ合うことで、地域農業の活性化にも貢献。

今後の
展望



農産物加工場



農産物加工の様子



農産物加工品

障害のある人の将来の生活の場の整備・充実を図るため、社会福祉法人設立。

規格外品を活用し、食材廃棄の減少を実現。

障害者就労継続支援事業の事業指定を受けており、地元の障害者の雇用創出に貢献している。

この取組は、生産者、加工品製造に携わる福祉施設の利用者、消費者による連携により、地産地消の農福連携による地域活性化のモデルとなっており、メディアでも取り上げられている。



特例子会社として、農地所有適格法人となり、高度な機械の導入による養液栽培を実施。難しい判断は機械を活用して効率化を図りつつ、農産物の安定的な生産を実現。

基本情報

- 所在地：大阪府泉南市
- 団体名：ハートランド株式会社
- 選定表彰：
 - 平成21年「大阪府ハートフル企業顕賞
ランプのともしび大賞」
 - 平成26年「ディスカバー農山漁村の宝」
 - 平成27年「なにわ農業賞」
- 主力商品：サラダほうれんそう・サラダ
こまつな・パクチー等を水耕栽培。
- 取得承認等
 - 平成19年 農地所有適格法人
 - 平成19年 認定農業者
 - 平成20年 大阪エコ農産物認証

取組の概要

- 文具やオフィス家具等を製造販売するコクヨグループの特例子会社であり、農地所有適格法人。
- 知的障害者5名・精神障害者2名を含む従業員18名（短時間就労含む）が、養液栽培によりサラダほうれんそう等を通年で栽培（令和4年）。
- 24時間コンピュータ管理を導入して、ハウスの温湿度管理を行うとともに、覆土灌水機や自動包装機を導入して効率化を図ると共に、難しい判断が必要な育苗についてはコンピュータ管理の苗テラスを活用して安定的な生産を実現。



正確に作業しやすく工夫された容器



コンピュータ管理の苗テラス



サラダほうれんそう

体制図

コクヨ（株）

8つの子会社

2つの特例子会社が、コクヨ(株)と8つの子会社をグループ適用によりカバー。

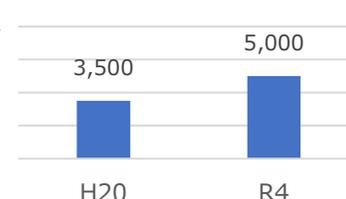
コクヨKハート（株）
（身体・精神障害者）

ハートランド（株）
（知的・精神障害者）

取組の成果

- 授産施設との連携による障害者の施設外就労受け入れ延べ人数は3,500人（平成20年）から約5,000人（令和4年）に増加。
- 視察人数も同様に増加している。

企業内授産延べ人数（人）



所在地 ▶ 大阪府泉南市幡代2018番地

連絡先 ▶ TEL：072-480-0567

ウェブサイト ▶ <https://www.kokuyo.co.jp/heartland/>

<https://www.facebook.com/kokuyoheartland>

<https://www.instagram.com/kokuyoheartland>

【取組のプロセス】

平成18年

きっかけ

就労率が低い知的障害者等の雇用促進のための職域として農業に着目し、持続可能なビジネスモデルの確立に向けて特例子会社を設立

特例子会社として農地取得、農業用ハウス設置、水耕栽培施設を導入し操業

開墾農地を使った農作物栽培などの事業

- 操業に向けて、農業用ハウスや水耕栽培施設の整備等を行う。泉南市幡代で41aの農地を購入し、農業生産法人になる。
- 農業経営基盤強化促進法に基づく認定農業者。



収穫・選別の様子

平成21年

高品質農産物提供のため、毎日タンクのpH測定、徹底した洗浄等を実施

大阪府ハートフル大賞受賞

- 安定的かつ持続可能なビジネスモデルとなるため、経営努力の継続、農産物の販売先の確保や障害者が主人公の会社となるべく、作業の分業化、工夫、終礼の実施等、障害者の主体性を尊重のほか、福祉施設の企業内授産の拡大等が認められ、受賞。



大阪府H.P.より

平成26年

働きやすくするため、①挨拶の励行、②全体終礼で一日の業務の振り返りのほか、月間MVPでモチベーション向上

企業内授産が拡大（100名／週の障害者が作業参加）

- 水耕栽培による障害者雇用を行う企業、社会福祉法人の視察受け入れ、アドバイスや販路紹介等を行い、ハートランド株式会社の取組が広がるように努力。
- 障害者を雇用し、農業に取り組んでいる企業のネットワーク化に努める。



農産物の包装作業

今後の展望

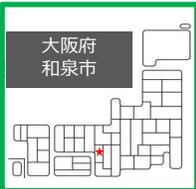
・受け身でなく、社員一人一人が自立できるように。
・それぞれが多能工を目指して職域拡大に努める

経営の安定と、「障害者が主人公」の会社経営を継続

- 常に効率化を考え、改善を行い、利益構造の確立に努力する。
- 障害者雇用における農業の可能性について、FacebookやInstagramを活用し、情報発信を続ける。
- コクヨグループと連携し、社会的課題であるダイバーシティ&インクルージョンの世界を広める。



定植作業の様子



生協が設立した就労継続支援A型事業所を併設した農地所有適格法人であり、生協で出た食品残渣を堆肥化し、ほ場の土作りに使用する「食品リサイクル・ループ」に取り組む。

基本情報

- 所在地：大阪府和泉市
- 団体名：株式会社いずみエコロジーファーム
- 選定表彰：
 - 令和2年度「食品産業もったいない大賞」
 - 令和3年 ノウフク・アワード2021 優秀賞
- 主力商品：きゅうり、こまつな等を栽培。
- 取得認証等：
 - 平成22年 認定農業者
 - 平成22年 農地所有適格法人
 - 令和元年 ノウフクJAS認証

取組の概要

- 平成22年、大阪いずみ市民生活協同組合が設立した農地所有適格法人。平成24年に、就労継続支援A型事業所「ハートランド事業部」を設立して、障害者を雇用。現在、知的障害者を中心とする利用者が、露地・ハウスの野菜栽培に通年で取り組む。
- 生協を軸として取組を展開し設立4年目で黒字化。生産物の約90%を生協に出荷している。生協で出た食品残渣を堆肥化し、ほ場の土作りに使用することで「食品リサイクル・ループ」にも取り組んでいる。
- いずみ市民生協グループ内の傷病休業していた職員に対して「復職プログラム」の一環として復職支援を実施。



食品残渣由来の堆肥
(ハートコープエコ)

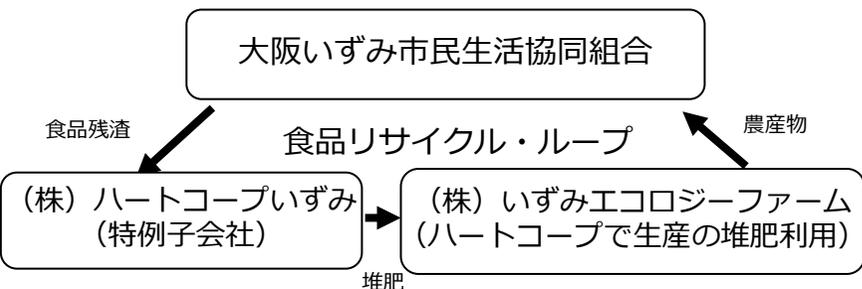


ハートコープエコ使用の農産物



農作業の様子

体制図



リサイクル堆肥（ハートコープエコ）を活用した農産物の生産・加工・販売を行う。

取組の成果

- 設立時（平成24年）の9名からスタートした障害者雇用者は、14名（令和4年）と増加している。
- 視察人数も同様に増加している。
- ノウフクJASを取得し（令和元年）、こまつなの年間出荷量が、35.2万袋から42.8万袋（令和4年）に増加。

企業内授産延べ人数（人）



所在地 ▶ 大阪府和泉市善正町1030番地

連絡先 ▶ TEL：0725-99-8057 E-mail：hi-miyake@izumi.coop

ウェブサイト ▶ <https://www.izumi.coop/coopsaien/#company>

【取組のプロセス】

平成22年

昭和49年に「大阪いずみ市民生活協同組合」は、主婦を中心とした消費者の活動により誕生。

きっかけ

生協から発生する食品残渣を堆肥化し、その堆肥で野菜を育てる「食品リサイクル・ループ」の実現に向け、堆肥の受け入れ先となる農地所有適格法人を設立

株式会社いずみエコロジーファームの設立

- 大阪いずみ市民生活協同組合が農地所有適格法人として設立し、廃棄ゴミゼロ、食品残渣の再資源化をめざし、リサイクル事業や食品残渣の再生利用事業を担う。



農場の全景

平成24年

障害者運転のトラクターによる耕耘から収穫、袋詰め作業までのすべての作業を実施（機械運転は試験合格者のみ）

就労継続支援 A 型事業所「ハートランド事業部」の設立

- 障害者の自立支援と雇用促進を目的に設立され、ハートコープいずみが生産するリサイクル堆肥（ハートコープエコ）を活用した農産物の生産・加工・販売を行う。
- 農地所有適格法人として農作物を栽培し、いずみ市民生協や地元の直売所へ出荷。



農作業の様子

令和元年

ノウフクJAS認証取得

- こまつな、きゅうり、ほうれんそう、しゅんぎくについてノウフクJAS認証を取得。ノウフクJAS認証取得後、出荷量が毎年大幅に増加傾向。
- 残留農薬チェックの上、殆どの生産物を大阪いずみ市民生活協同組合に出荷。



ノウフクJASのロゴマーク

今後の展望

受け身でなく、社員1人1人が自立できるように、障害者がリーダーとなり、指導できる環境へ。

黒字経営の維持を目指し、さらなる事業分野の開拓を進める

- いずみ市民生協グループ全体で、リサイクル資源の再資源化や食品残渣の堆肥化の促進により、組合員の環境活動への意識向上にもつながり、更なる発展が必要。
- 設立4年目に黒字化を達成したものの、引き続き黒字経営を維持するとともに、大阪いずみ市民生活協同組合と連動して、さらなる事業分野の開拓を進めていきたい。



ノウフクJAS農産物



障害の有無や年齢を問わず、すべての人たちが集い、人と自然、人と人との触れ合いの中でお互いを認め合い、生きがいを見つける地域のコミュニティを提供。園芸療法により利用者の主体性を引き出す。

基本情報

- 所在地：大阪府高槻市
- 団体名：特定非営利活動法人たかつき
- 選定表彰：ノウフク・アワード2023
チャレンジ賞
- 主力商品：－
- 取得認証等：－



「自分の畑」でミニトマトを収穫

取組の概要

- 介護保険施設であるデイサービスセンター晴耕雨読舎を平成19年に開所。農地を借りて認知症高齢者や要介護高齢者の生きがいづくり、健康維持、増進に向けた園芸療法を実施。
- 施設に隣接する農地（7a）に加えて、農作業に取り組む利用者の増加に伴い遊休農地（4.5a）を借り、比較的体が動く利用者とともに畑として活用。
- 現在造園エクステリア企業との連携企画が進行。要介護高齢者がいる老人ホームやデイサービスで農園芸に取り組めるシステムのモデル作りを進めている。



建物に隣接した農地に「自分の畑」が並ぶ



収穫時に笑顔が弾ける



体を動かすことで運動機能向上・維持

体制図

特定非営利活動法人 たかつき

介護保険事業部

子ども事業部

園芸療法事業部

取組の成果

- 認知症で意欲低下が著しく動くことが少ない利用者が自分の畑を持ち、野菜の手入れをすることで、収穫の頃には畑までの往復歩行が習慣化。
- 利用当初に比べて歩く距離が増え、下肢筋力の低下を予防。
- 近隣の遊休農地を活用することで農地の維持に貢献。
- 介護高齢者数は2,400人（平成13年）から、5,580人（令和4年）へと増加。
- 「認知症ケア事例ジャーナル」の特集において、10ページに渡って、認知症介護の現場での園芸療法の取組方法や有効性について発信。

所在地 ▶ 大阪府高槻市原2235番地

連絡先 ▶ TEL:072-689-9112 E-mail: information@npo-takatsuki.org

ウェブサイト ▶ <https://npo-takatsuki.org>

【取組のプロセス】

平成13年

要支援・要介護高齢者の活躍の場を創出

きっかけ

要支援・要介護高齢者の活躍の場を創出することを目的に施設と隣接する農地7aを借りて園芸療法を開始

介護保険施設であるデイサービスセンター晴耕雨読舎を開所

- 園芸療法に取り組めるように農地を借り、一部を農地転用して建物を建て、農地を活用して園芸療法を実施。
- 農地の整備は利用者の状態に合わせてレイズドベッドの導入、利用者個々の畑区画「自分の畑」の導入などを進め、利用者の主体性を引き出し、能動的に活動参加。



レイズドベッド
座った状態で白菜を管理

平成30年

地域の遊休農地を活用

農地面積は遊休農地と合わせて11.5a

- 当初は施設に隣接する農地のみ（7a）で農作業をしていたが、農作業に取り組む利用者が増加。デイサービスから少し離れた遊休農地（4.5a）を借り、比較的体が動く利用者とともに畑として活用。



仏壇に飾る花を育て
自らが摘んで持ち帰る

令和4年

多世代交流により、誰もが楽しめる地域の場を創出

小学生の自然体験活動日を倍に増やす

- 遊休農地を地域の小学生の自然体験活動に利用。月2回地域の小学生40人が参加し、季節の野菜作りを中心とした農業体験をしている。
- デイサービスにある畑で地域の未就学児親子の自然体験活動を月3回実施し、子どもたちは農業体験をするとともにデイサービスの利用者と自然にふれあうことができている。



90歳がバケツ稲を収穫

今後の
展望

人生の最期の時間を有意義に幸せに過ごせる社会をつくるための輪を広げたい

隣の市のデイサービスで農園芸の取組を指導

- 農園芸ができる介護現場を増やすために、当法人のスタッフで共有している「園芸療法心得帳」を土台にマニュアルを作成する。このマニュアルを活用し、全国各地の高齢者施設で農園芸を実践できる仕組みを作る。

- 介護現場での農福連携の取組を通して、高齢化による農業の担い手不足と、それによる荒廃農地の増加といった社会課題を解決していきたい。



大阪西成区のイメージを変えよう“にしなりが変われば大阪が変わる”生活弱者と言われる人たちで新しい産業を創り、“にしなりムーブメント”を起こし、地域の活性化と共に美味しい食材を大阪の食卓へ。

基本情報

- 所在地：大阪府大阪市
- 団体名：特定非営利活動法人街かど福祉
街かどあぐりにしなり よろしい茸工房
- 選定表彰：
 - ・福祉未来創造大賞2018
ソーシャルビジネスプラン部門特別賞
(主催：NPO法人DeepPeople)
- 主力商品：しいたけ・きくらげ・たもぎ
Meひーじょ（芽椎茸のアヒージョ）
- 取得認証等：
令和元年 認定農業者



菌床工場 充填作業

取組の概要

- 就労継続支援施設A型利用者とB型利用者の障害者16名（高齢者、生活困窮者等含む）及び職員7名で菌床生しいたけの製造に取り組む（令和5年）。
- 栽培した生しいたけは、梅田、難波、天王寺等大阪市内の飲食店を中心に小規模スーパー、産直市場のほか、“難波高島屋”へ毎日配達。企業とのコラボ企画で、「芽しいたけのチップス」、「しいたけのベジポタスープ」、「よろしい茸の炊いたん」を商品化。無印良品とコラボ「きのこのご飯・スープ」「きのこのアヒージョ」を商品化。
- 農山漁村振興交付金（農福連携対策）により、農福連携技術支援者3名の人材を育成。



よろしい茸工房全景

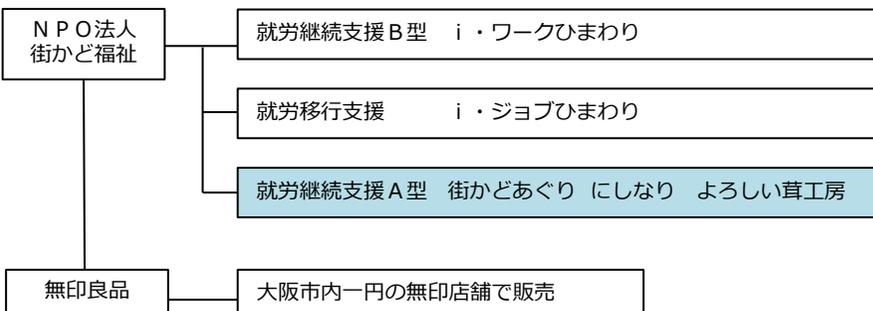


しいたけの栽培状況



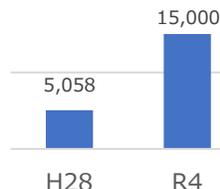
各種店舗での販売状況

体制図



取組の成果

- しいたけの売上げは、取組当初(平成28年)の5,058千円から しいたけ売上高 (千円)
15,000千円 (令和4年) へ増加。
- 施設面積も、4.95a (平成28年) から6.27a (令和2年) へ増加、自家菌床製造施設も併設 (令和3年) し、菌床も含め、全て大阪産に。



所在地▶大阪市西成区北津守4-9-5

連絡先▶TEL：06-6567-1007 E-mail：toyota@iwork-himawari.com

ウェブサイト▶<http://www.yoroshitake.com>

【取組のプロセス】

平成16年

頑張れば自らの手で対価を得られるという働く喜び、楽しみを知ってもらいたいとの考えでスタート

きっかけ

就労継続支援B型事業所から就職を！というコンセプトで菌床椎茸栽培をスタート

平成24年

スキルがあっても、コミュニケーションが苦手なため、自立促進に向け新たな働き場所として、街なかで農業ができないものか検討

就労継続支援B型事業所 iワークひまわり開設

- 障害者の作業を行うための施設を開設するほか、ワークショップ等の活動も始める。
- 体調管理やスキルアップに取り組む「施設内訓練」、安定して長く働くための「職場定着支援」等、トータルサポートを心がける。



iワークひまわりの外観

平成28年

動画で作業マニュアルの作成により、利用者にとってスムーズに作業が出来るよう工夫

就労継続支援A型事業所 街かどめぐり にしなり よろしい茸工房 開設

- 行政に対して、障害者、生活困窮者等も働くことが出来て、西成のイメージを一新し、地域活性化となり得る都市型農業として菌床栽培施設での菌床しいたけ栽培を提案。
- その結果、賛同が得られ、街なかでの農業が始まった。



工房内の障害者スタッフ

令和2年

府立西成高校のビジネス体験及びなにわ高等支援学校の農業コースへ菌床の提供等や栽培体験の提供を実施中

よろしい茸ひまわり子ども食堂開設

- 北津守地域や近隣の子ども達とのつながりが増えることを目的として、北津守地域で初めての子ども食堂を開設。
- 「街かどめぐり にしなり よろしい茸工房」が運営。
- 令和3年1月 菌床製造工場始動 同年4月より自社菌床にて栽培始まる。



子ども食堂のメニュー

今後の展望

大阪産しいたけの認知拡大と販売促進

- マスコミ各社の取材や各種イベントへの積極的な出店等による大阪産しいたけの認知度拡大と販売促進の為にプロモーションECサイトに力を入れ、コロナ禍の非接触販売を経て、SNS活用へとシフト変更行い、複数のECサイトの活用にも力を入れる。
- 区内小中学生の見学と区内中学生の実習の受入を継続しており、感想文が何よりの楽しみであり、椎茸嫌い克服してくれる子達が続出、引き続き継続していく。
- 大阪パルコープ、無印良品とのコラボも令和5年から始まり、今年度も継続中である。



小学生の見学と実習の様子

S56年から農福連携を開始。地域の農業者の高齢化により作業受託面積を拡大し、草刈り機の操縦等にも障害者が従事。竹林の伐採・搬出等も実施。

福祉事業所

兵庫県神戸市



きっかけ

昭和56年

農福連携という言葉が使われる前から、利用者の職業訓練の一環として農作業を実施。

人を耕す

- 職業訓練として50年以上の実績があり、現在は、知的障害者35名が農作業を実施。
- 草刈班、米作業班、調整班、加工班とチームを組んで活動。班内にはリーダーを設けることなく、誰もが自分の役割を果たせるように工夫。

取組

地域を耕す

- 地元の森林組織から依頼を受け、土手や法面の整地、水路の溝切り、竹林の伐採作業を実施。荒廃農地等での作業受託は水稻約13ha、野菜約1ha。
- 公益財団法人の助成金を活用してライスセンター機材を設置したことで、稲作全般の作業を行うことができるため、地域から依頼も増え、地域の農地の維持に貢献。
- 水田活用の直接支払交付金を活用して、白大豆を生産。

未来を耕す

- 地元の田畑の維持管理をする上で隣接する竹山林の整備作業に役立てるため、共同募金会の配分金を活用してウッドチップパーを導入し、樹木のチップ化や竹の堆肥化を行う。
- 「米粉倶楽部」に登録し、米粉を販売。地域の喫茶室、カフェから地産地消を推進する目的で米粉が使用されるなど、販路が拡大。

基本情報

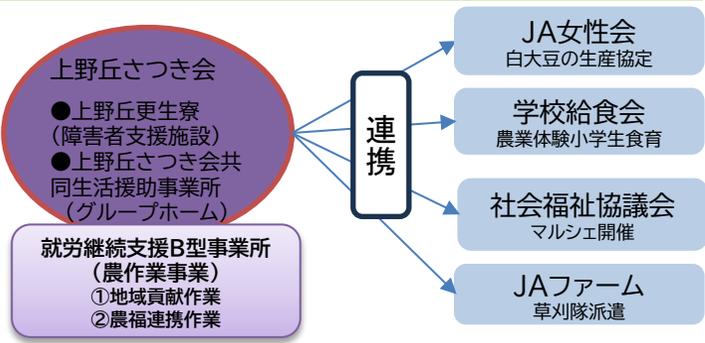
設立:S43年/農福連携取組開始:S56年

概要

主力商品
(農作物)じゃがいも、たまねぎ、白大豆、米、すいか
(加工品)米粉、米粉を利用した穀物パンケーキミックス粉

特徴的な取組
環境保全型農業

体制図

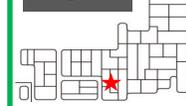


成果

平均工賃月額	農作業に関わる障害者数	農業売上	農地面積
5,000円(S56) →18,700円(R5)	20人(S56) →35人(R5)	800千円(S56) →21,812千円(R5)	2ha(S56) →14ha(R5)

- 神戸市都市局や社会福祉協議会主催のマルシェに積極的に参加し、自家栽培野菜を販売。利用者自身が対面で販売することで農福連携の発信につながるほか、利用者の生きがいを創出。また、地域からの要望に応える形で、マルシェの参加を継続しており、収益も向上。
- JA女性会との連携による「北神みそ」の原材料の白大豆生産及び、社会福祉協議会との連携による「ごはんプロジェクト」、「教育ファーム」の設置による子どもたちへの食育など、地域活性化に寄与。

TEL:078-958-0252/Mail:info@uenooka.jp



高齢・過疎化が進行し、急速に荒廃林や荒廃農地が増加する地域で、農福連携により障害の有無にかかわらず、皆が活躍できる「持続可能な農山村地域づくり」を目指す。

基本情報

- 所在地：奈良県奈良市
- 団体名：社会福祉法人青葉仁会
- 選定表彰：
 - ノウフク・アワード2020審査員特別賞「地域を耕す」
 - 米・食味分析鑑定コンクール2018国際大会
 - プレミアムライセンスグッドファーマー
(主催：米・食味鑑定士協会)
 - 令和5年度 循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰
 - ノウフク・アワード2023グランプリ
- 主力商品：
 - (農作物) 水稻、さつまいも、ブルーベリー、タマネギ
 - (加工品) 干し芋、レトルト・冷凍食品、菓子等
- 取得認証等：－

取組の概要

- 荒廃農地となった各地域の広大な農地で米、さつまいも、玉ねぎ、じゃがいもや夏野菜、冬野菜を20種類以上、ブルーベリーや栗など果樹を栽培。最盛期には収穫祭を開催、県内外から大勢の来客がある。
- 収穫した農産物は、法人内のカフェ・レストランの食材として、加工部門の事業所では、ブルーベリージャム、カレー、バジルペースト、干し芋、惣菜などに利用され、いずれも障害者が主力として働く。
- また、企業のOEM受託、スーパーや物産店等、全国へ農産物や加工品を出荷しているほか、地元生鮮野菜加工企業と連携し、廃棄予定の野菜の端材を引き受け、商品に加工し、またそれらの生産品を小売企業と連携し、販売活動を活性化するなど、フードロスの削減に対する事業を行っている。
- その他、観光農園の運営、廃校の活用など、多角的に事業を展開。



稲刈りを皆で協力



ブルーベリー収穫祭



レストランでのホール業務

体制図

社会福祉法人
青葉仁会

あおはにの家 萌あおはに
(施設入所・生活介護・就労継続B)

あおはにファーム・あおはに自然学校
(農産物の生産・ブルーベリー園・観光農園)

水間ワークス(飲食店・乾燥加工) RIKUGOの森(レトルト・冷凍製品製造) ポラーノ広場(飲食店、パン製造) 生駒事業所(飲食店、菓子製造) 満天ひろば(飲食店、石鹸・縫製製造) デリカテッセンイーハトーヴ(飲食店、給食製造) 日笠ワークス(飲食店、紙漉き製造)

取組の成果

- 農産物の売上は、625万円(H30)から1,358万円(R4)へ増加。
- 食品加工の環境を活かした就業訓練で、40名を超える利用者が一般企業に就職。
- ノウフク関連業務にあたる障害者(継続支援・生活介護・就労移行・雇用含む)の人数は427名になり、約5,660万/令和4年度の工賃・賃金を支払う。

所在地 ▶ 奈良県奈良市 杉ノ川町50-1

連絡先 ▶ TEL : 0742-81-0420 E-mail : info@aohani.com

ウェブサイト ▶ <https://aohani.org/>

【取組のプロセス】

昭和55年

当時障害児には、学校卒業後の選択肢は少なく、長年在宅で親兄弟の世話を受け続ける現状

平成4年

奈良市東部地域での事業展開を実施。袖の川ワークス、水間ワークス、日笠ワークス設立

平成14年

奈良県北西部に事業展開。デリカテッセンイーハトヴ、ポラーノ広場、生駒事業所を開設

平成22年

農山漁村振興交付金事業の活用

米は10t、さつまいも12t、ブルーベリー10t、玉ねぎ5tなど、各種野菜も20種類以上栽培

今後の展望

きっかけ

義務教育卒業後の生徒たちの行き場が、社会全体で整備されていないことに大きな問題を感じたことから社会福祉法人を設立

社会福祉法人青葉仁会の設立

- 知的障害者入所授産施設あおはにの家を開設。
- 障害者の作業を行うための施設を開設するほかワークショップ等の活動も開始。

第2入所施設 萌あおはにを開所

- 生産活動を通じて社会参加を促し、自立支援と工賃を保障するため、様々な生産活動を開始。農業部門は「自然学校班」として養蜂やさつまいも栽培を担当。
- また、地域は高齢・過疎化が進行し、急速に荒廃林や荒廃農地が増加する中、障害のある人たちが担い手となって「持続可能な農山村地域づくり」を目指す。

農業生産、食品加工を強化

- 農福連携を通じた地域の再生を目的として、さらなる生産拡大のため農業に専従する「あおはにファーム」を新設。さつまいも、米等の生産拡大を行う。荒廃した茶畑を開墾してブルーベリー園へ再生し、摘み取りを楽しめる農場では、「自然学校班」に所属する障害者が主体となって運営し、年間を通じて就労できる作業を確保。
- あおはにファームで栽培した野菜を使用した冷凍食品、レトルト食品、菓子を法人内5事業所で分担して実施。加工工程でも多くの障害者が活躍する。
- 法人内7か所の飲食店であおはにファームの野菜を活用したメニューを提供。
- 他法人と連携した事業で、ひとり親家庭への食材提供や子ども食堂利用者の収穫体験ツアーなどを実施。ビニールハウスの設置により通年安定した食料が供給できる。

地域全体を支える法人に

- 農業衰退の進む中山間地域で、障害のある人たちが主体となったマルシェ、レストラン、農産物販売、農業体験、農家生活体験の場を提供することで、地域全体の更なる集客増加を目指し、地域の人が集まれる場所、地域文化と農福連携を実現したい。
- 荒廃農地や就農者の減少を食い止め、地域の食料供給のセーフティーネットとして機能することに加え、障害の有無に関係なく多くの人たちが活躍し、社会全体を支える仕組みを実現する。



施設の送迎車



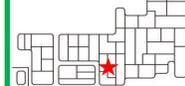
農作業の様子



自家栽培さつまいもの干し芋



農山漁村振興交付金を活用したビニールハウス



国の司法行政と地域の福祉を繋ぐ役割を担い、就労の場作りを行うこと等により、罪に問われた者等の社会復帰を支援し、誰もが地域の一員として包摂される社会の実現を目指す。

基本情報

- 所在地：奈良県橿原市
- 団体名：一般財団法人かがやきホーム
- 選定表彰：奈良県保護観察所 感謝状
作田明賞 優秀賞
ノウフク・アワード2023
チャレンジ賞
- 主力商品：－
- 取得認証等：－

一般財団法人 かがやきホーム
～Splendente Famiglia NARA～

「全ての困っている人を、家族の一員として受け入れ、一人一人が輝ける家」として命名

取組の概要

- 令和2年、奈良県が「奈良県更生支援の推進に関する条例」を制定したことを契機に、県の出捐により、県知事を代表理事とする財団法人として設立。法務省と連携して都道府県が罪に問われた者等の社会復帰を支援する仕組みは全国初。
- 刑務所出所者等を直接雇用し、五条市内の森林組合及び青ネギ生産組合等の協力により、同組合での就労研修（技術指導等）を実施。
- 居住する市内で実施されたクリーンキャンペーンやこども食堂への応援など、社会貢献活動に積極的参加。



五條市青ネギ生産組合(研修先)
で農業の技術指導を受ける

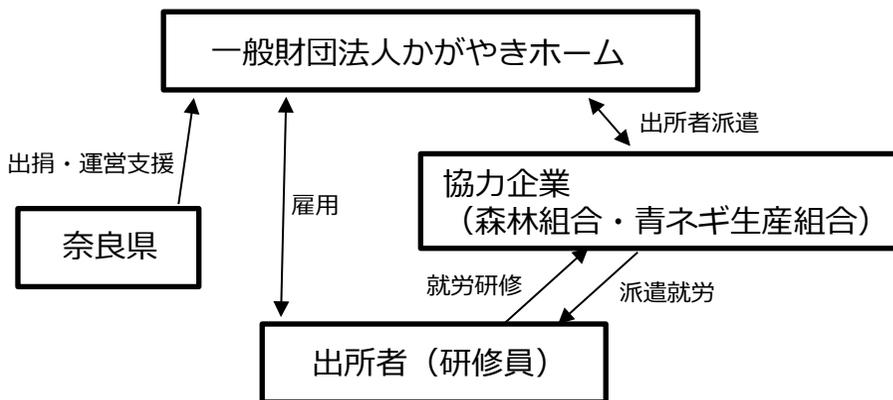


五條市森林組合(研修先)
で林業の技術指導を受ける



五條市市民集會に自主参加(社会貢献作業)

体制図



取組の成果

- 就労を通じて様々な人たちと交流することでコミュニケーションスキルの向上に繋がっている。
- 社会福祉施設において利用者と触れ合いながら作業実習の手助けをすることで共助・協働の意識が高められている。
- 令和2年9月に雇用した研修員1名が五條市森林組合に正式採用。
- 活動が認められたことで、近隣の休耕田を無償で借り入れることができ、ネギの栽培により荒廃農地の解消に貢献。

所在地 ▶ 奈良県橿原市大久保町320番地の11

連絡先 ▶ TEL:0744-33-9661

ウェブサイト ▶ <https://www.nara-kagayaki.com/>

令和2年

罪に問われた者等を支援するために地域において就労の場や住居を確保することを目的に設立

きっかけ

国の司法行政と地域の福祉を繋ぐ役割を担い、就労の場を作り出すことを目的として取組を開始

罪に問われた者等を支援するために設立

- 令和2年、「奈良県更生支援の推進に関する条例」に基づき、罪に問われた者等の更生支援に関する事業を行う財団として設立。
- 出所者を雇用し、就労の場を提供するのみならず、住居の提供や社会教育の実施により社会復帰を支援する。



手塩にかけてネギを栽培

令和4年

農業就労研修のため出所者2名の雇用

ネギ生産組合で農業就労研修を開始、荒廃農地の解消

- 令和4年10月から農業就労研修を開始。働きぶりが認められ、近隣の休耕田(29a)を無償で借り入れてネギを栽培。荒廃農地の解消による地域維持に貢献。
- 五條市森林組合において週に4日、木の伐採、草刈り、作業道の整備、植林などに従事して林業の技術指導を受ける。



カットネギ工場パック詰め

令和5年

社会貢献作業を通じて福祉施設との交流を深め、同施設との連携を図る

地域との連携・社会への包摂と社会復帰

- 週に一度、社会貢献活動として福祉施設において空き缶の仕分け（リサイクル）や肥料作りを手伝うなどして、福祉施設との関わりを深めている。
- 研修員が社会福祉法人の農業部や研修先の福祉施設に採用される等、地域の農林水産業の担い手に。
- 現状では更生支援を実際に担う団体・機関が一部に限定されているため、派遣できる職種を広げ、充実させ社会に貢献することを目指している。



五條市クリーンキャンペーンに参加(奉仕活動)

令和6年

研修員2名のうち、1名は福祉施設の職員として採用予定
他の1名は、農業就労研修を継続

研修員の自立を目指す

- 農業系学校のカリキュラムも踏まえて、農業従事者に必要な技能、資格取得（日本農業技術検定各級、農業簿記各級、農業機械士及び大型特殊免許などの資格取得）を目指し、将来は研修員の自立（起業・農業法人での就農等）に繋げる。



刈払機講習にて技術習得と資格取得

今後の展望



「平和で持続的な地域社会をつくる」を共通理念とし、直売所「ふうの丘」の顧客開拓、農業の担い手の減少と荒廃農地の増加への対応するため、野菜等の地元産品を使ったメニューを提供するカフェ経営や作物栽培等に取り組む。

- ### 基本情報
- 所在地：和歌山県紀の川市
 - 団体名：社会福祉法人 一麦会
ソーシャルファームもぎたて
 - 選定表彰：ノウフク・アワード2021
優秀賞
 - 主力商品：たまねぎ、トマト、大根、唐辛子、キウイフルーツ、レモン、α化米粉、お米かりんとう、米パン粉等
 - 取得認証等：平成28年 有機JAS

取組の概要

- 地域の直売所「ふうの丘」の顧客開拓のため「ふうの丘」内で2件のカフェを運営し、野菜や果物等の地域産品を使ったメニューを提供するするとともに、農業の担い手の減少と荒廃農地の増加への対応するため、農作物の栽培等への取組。
- 農地2haを借上げ、たまねぎ、トマト、大根、キウイ等を栽培し、年間を通して紀の川農協等に出荷。また、キウイやじゃばらの加工への取組む。



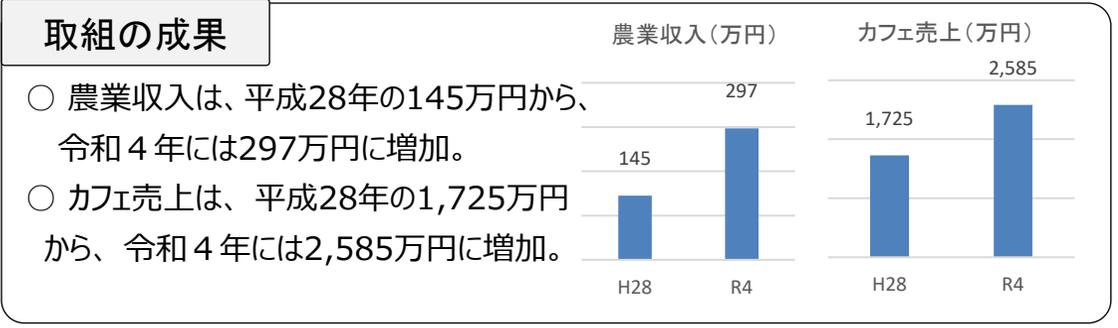
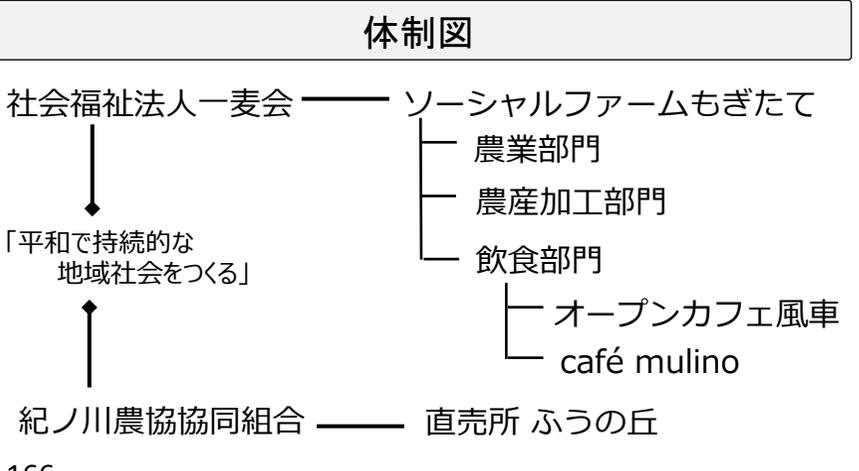
たまねぎの収穫



柿の加工



地域野菜をふんだんに使ったカフェメニュー



所在地 ▶ 和歌山県紀の川市平野927
 連絡先 ▶ TEL : 0736-75-4603 E-mail : muginosato.mogitate@gmail.com
 ウェブサイト ▶ <https://socialfirm-mogitate.jp/>

きっかけ

飲食店経営をして欲しいと紀ノ川農協から要請があったことから飲食店の運営を開始し、地域の担い手の減少や荒廃農地の増加を受けて野菜の栽培も開始

平成13年

オープンカフェ「風車」を開設

- 平成13年、紀ノ川農協がファーマーズマーケット紀ノ川「ふうの丘」をオープン。一麦会に飲食店経営の要請があり、オープンカフェ「風車」の運営を開始。
- 地域の野菜、果物、こめ油等をPRする意識で、これらを使ったオムライス、コロッケ、スムージー等のメニューを提供。



荒廃農地の再生

平成27年

ムリーノ（カフェレストラン）の開設

- 平成27年、ファーマーズマーケット紀ノ川「ふうの丘」で、カフェ・ムリーノ（カフェレストラン）の運営開始。
- 人気の「野菜で旅するランチプレート」など、地域野菜をふんだんに使った旅がテーマのメニューを開発、提供。
- 荒廃農地を再生して借受け、トマトケチャップ工場の依頼に応じて、加工用トマトを栽培。
- 平成28年、紀ノ川農協の荒廃農地再生プロジェクトで有機JASたまねぎ(1ha)を栽培。



平成29年、アルファ米粉を生産する米粉事業を開始

令和2年

最近の状況

- 農業収入：約3百万円（R4）、カフェ収入：約2,600万円（R4）、農産加工等収入：約1,400万円（R4）平均工賃：約8万円（R4）、障害者雇用数：22名（R4）



トマトやキウイを用いた加工品の製造

今後の展望

地域交流、地元産品の積極的使用に加えて、経営規模拡大を検討

- 農業主催のイベント等に積極的に参加して地域交流を図ること、加工品や食事メニューの開発にあたって、地元企業や農家等の産品を積極的に使用することを今後も継続する。
- 高齢農家の農地の受け手と地域で認知されており、借りてほしいという声に応えるため、経営規模の拡大を検討。



塩づくりに関する遺跡のある地で、地域の農業組合、漁業組合、食品加工会社、生活協同組合などと連携し、化石燃料を使わない釜炊き自然塩づくりに取り組む。

基本情報

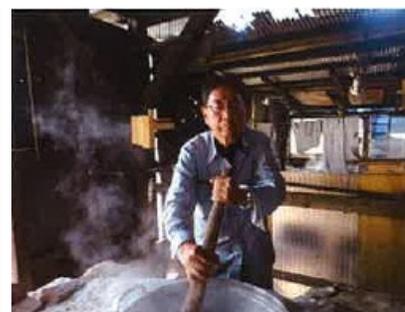
- 所在地：和歌山県御坊市
- 団体名：社会福祉法人 太陽福祉会
- 選定表彰：平成22年度「優秀賞」環境省
ノウフク・アワード2021
チャレンジ賞
- 主力商品：釜炊き自然塩
- 取得認証等：—

取組の概要

- 塩づくりに関する遺跡がある地で、紀伊水道の海水を汲み上げ、地域の廃材を燃料とした、化石燃料を使わない釜炊き自然塩づくりに取り組む。
- 商品は直売所、ホテル、飲食店等で販売するとともに、塩を用いた生食パンの製造・販売、学童等を対象とした釜炊き体験等を実施。



地域の遺跡から出土した製塩土器



釜炊き



塩を用いた生食パンやピザ

体制図

社会福祉法人 太陽福祉会
・ 菜の花作業所

就労継続支援B型事業所
和の杜

御坊市
(ふるさと納税等)

(株) メモリアルウエスト

(有) 鳥好

...

取組の成果

- 平均工賃は、H28の11,542円から、25,000円(R4)に増加。
- 過去5年の塩の生産量は約3トン、売上は500万円以上を継続して達成。

平均工賃(円)



所在地 ▶ 和歌山県御坊市塩屋町南塩屋450-7

連絡先 ▶ TEL : 0738-23-3267 E-mail : kashiwagi@taiyo.or.jp

ウェブサイト ▶ <https://www.taiyo.or.jp/>

きっかけ

地域に障害者が日中活動できる居場所がなかったことから、障害者の父兄等を中心としてNPO法人を設立

平成14年

NPO法人菜の花会地域活動支援センターの設立

- 平成14年、障害者の父兄等が中心となってNPO法人菜の花会 地域活動支援センターを設立。
- 地域農家より山林地を無償で借受け、作業場を建設。
- 漁業者の協力により汲み上げた、紀伊水道の海水を釜で炊き上げる自然塩づくりに取り組む。
- 釜炊きの燃料は、地域で増える廃屋の廃材を用いて利用者が薪を作成。



海水の汲み上げ

平成22年

平成22年、御坊市より休止中の給食センターを無償で借り受け、作業場、事務所、売店を開設

社会福祉法人 太陽福祉会に経営移管

- 取組の活発化を目指し、NPO法人菜の花会を社会福祉法人太陽福祉会に経営移管。



釜炊き

令和2年

最近の状況

- 塩生産量：約3トン（R4）、売上：500万円（R4）、平均工賃：25,000円（R4）、

障害者の就労者数：14名（R4）



3重に行う異物チェック

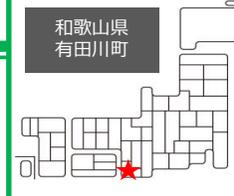
取組の発展に向けて

- 利用者の平均工賃は県平均を上回っているが、今後も生産と販路の拡大の取組を目指す。
- 塩づくりの工程で発生するにがり（ぬり）を肥料等にするなどの活用を検討する。
- 都市部からの見学者が増えており、釜炊き体験等による都市農村交流の取組を目指す。
- 漁業者に海水の確保に協力いただいております。元気のない地域の漁業を応援するためにも干物等の水産加工の取組を目指します。



農産物に、にがり（ぬり）を噴霧する

今後の展望



営農条件の悪い畑を活用してみかんや野菜等を生産し、これを用いて喫茶を開催するなど、深刻化する荒廃農地の増加等の課題に対して、地域の関係者と協力しながら地域に根差した取組を進める。

基本情報

- 所在地：和歌山県有田川町
- 団体名：社会福祉法人有田つくし福社会
- 選定表彰：
 - 令和4年度 ノウフク・アワード2022 優秀賞
 - 令和5年度 近畿農政局「ディスカバー農山漁村の宝」(第7回) ビジネス・イノベーション部門 受賞
- 主力商品：
 - 温州みかん等柑橘類、南高梅、山椒、ししとう、ばれいしょ、地域の果物を用いたジャムやマーマレード
- 取得認証等：
 - 令和4年 認定農業者

取組の概要

- 就労継続支援B型事業所の利用者23名と、農作物の生産、加工及び販売を含めた6次産業化、地域の交流サロンとしての喫茶の開催等に取り組む。
- 担い手が見つかりにくい中山間地の段々畑を活用して、みかん等の柑橘類、南高梅、山椒、野菜を生産。みかんは、京阪神エリアや関東へ出荷。
- 生産したみかん等を用いたジュースや、近隣農家が生産した果物を用いたジャム等を製造。
- 喫茶の定期開催や高齢者を対象に無料で弁当配達を実施。



廃校を利用した事業所



みかん等栽培園地



加工品 (ジュース、ジャム)

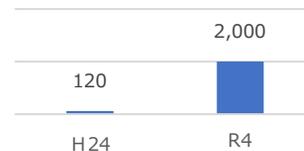
体制図

- 事業連携機関
- 法人内事業所 (カフェ&ベーカリーオリーブ)
 - 農協 (JAありだ)・JAタウン
 - 公益財団法人ヤマト福祉財団
 - 日本農福連携協会・農福連携等応援コンソーシアム
 - 農業総合研究所など地元企業
 - 近隣農家・地域の飲食店
 - (一社)和歌山県セルフセンター
 - 農福連携関係の福祉事業所
 - 有田川町・和歌山県
 - 一般消費者等

取組の成果

- 農業収入は、約120万円 (平成24年) から約2,000万円 (令和5年) に向上。
- 月当たり平均工賃は、約16,000円 (平成24年) から約41,000円 (令和5年) に向上。

農業収入 (万円)



所在地▶和歌山県有田郡有田川町尾上13-1

連絡先▶TEL:0737-34-2008 E-mail:hayatsuki@iaa.itkeeper.ne.jp

ウェブサイト▶<http://www.wasaren.org/hayatsuki/>

【取組のプロセス】

平成24年

きっかけ

内職やパンの製造・販売を中心の作業所を運営していたが、農作業のセラピー効果や健康増進効果が期待されることから、農福連携の取組を開始

就労継続支援B型事業所「早月農園」開設

荒廃農地を活用して農業を開始

- 地域で増加する荒廃農地40aを借受け、農業を開始。
- その後、経営耕地面積を拡大。（令和6年時点で約5ha）
- 栽培技術の習得による収益向上を目指し、JAの農業塾等に参加。

平成29年

町の補助事業を活用し、獣害対策の実施と柑橘運搬用モノレール等を整備

6次産業化により工賃向上を実現

- 自園産及び地域の果物を原料としたジュースや、ジャムを商品化。
- 高齢者を含めた地域雇用を進め、地域交流を目的としたサロン『喫茶はやつき』を定期開催。高齢者を対象とした無料の弁当配達を開始。
- 目標であった利用者平均工賃3万円/月を達成。

令和2年

農福連携推進協議会（現：日本農福連携推進協会）に加盟

出荷先の拡大と少品目化の推進

- ヤマト福祉財団の実践塾がきっかけで、大阪の作業所など塾生が在籍する県外の作業所とみかんの取引を開始。
- ヤマト福祉財団の助成を活用し、ハウス、柑橘の選果機、ジャム製造機などを整備。
- 利用者の作業のしやすさへの配慮と売上向上を図るため、多品目栽培を改め、少品目栽培を推進。
- 密封包装食品製造業（令和4年）、漬物製造業（令和5年）の営業許可証を取得。現在は梅干しの商品化に取り組む。

今後の展望

ヤマト福祉財団主催の農福連携実践塾に入塾

令和4年、認定農業者となる

漬物製造業
密封包装食品製造業の営業許可証を取得

今後も地域に根差した農園運営に取り組む

- 地域の障害者、高齢者、農家、その他関係者と協力し、課題を共有しながら地域に根差した農園運営に今後も取り組んでいく。
- 利用者の経済的な自立に貢献するため、平均工賃3万円/月以上の継続達成を目指す。
- これまで5名が一般就労しており、今後も継続して一般就労を支援する。



温州みかんの収穫



高齢者弁当配達サービス



早月農園周辺